

会報
37号

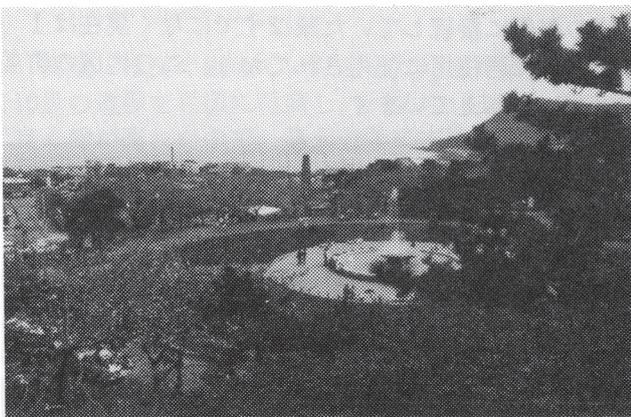


函館の歴史的風土を守る会会報
No.37 1991. 2. 10
発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社内
電話 (0138)51-4785
印刷所 双葉印刷 電話 53-7730番

第13回 函館の町並みを語る新春チャリティ パーティーで歴風文化賞の発表と贈呈式をしました

函館の原風景として「函館公園」

宣言文



函館公園は、市民のかけがえなき憩いと安らぎ・思索と観賞・語らいと行楽の地として数々の歴史を刻んできました。明治12年(1879)英国領事ユースデン夫妻のすすめにより極めて先駆的な都市計画思想にもとづきつくられました。しかも今日の市民をして誇り得べきことは他に類例を見ない住民主導でなされ、当初より博物館を含む我国に於けるカルチャーパークの源流とも見なされています。

函館公園こそ明治初年の公園のレイアウトを今に伝える第一級の文化遺産であり、美しい自然の中に先人の心意気を偲ぶ原風景であり歴風文化賞に値する物として、ここに宣言します。

実行委員長あいさつ

実行委員長 陳 有 渠

西部の美しい町並み—それは私の青春だ—

私は幼い頃より西部の街に育ち青春の日々を過ごしてきました。特に西高校在学の3年間は私にとり終生忘れ得ぬ素晴らしい日々であり、しかもそれは常に西部の町並みと混然一体となっている。丸井の坂道、白百合高校の坂道、二十間坂、NHKの構内等々その一つ一つが朝な夕な友と手を組みながら通い馴れた思い出多い場所なのである。放課後ラグビーやハンドボールの練習を終えハリストス正教会の前を友と肩を組み、愛を語り恋を語り青春を語り、三々五々暮れなずむ西部の夕闇を家路に辿った日々は今でも懐かしく思い出され胸を熱くしているのである。夕陽が学び舎を真赤に染め上げ、アンジェラスの鐘が鳴り、眼下に出船入船を眺めて家路を辿った日々……今も私の胸にひたひたとよみがえって来るのである。あれから三十数年の歳月が流れ、私は無為に時をおくる老いの自分を悲しみ、時に思い出しては遠い日々、通い馴れた道の一つ一つを尋ね、西部の街を彷徨し青春の日々をなつかしみ、心を熱くして涙を流す往還でもある。

西部の古い町並みは、まさに私の心の故郷であり青春であり、郷愁そのものである。しかし昨今、地価の著しい高騰により、古い景観が破壊されるのを見るにつけ、深い悲しみと憂いを禁じ得ないのである。開発と保存と云う時代の大きな流れの中に函館は今、大きな岐路に立たされているのである。しかし都市再生と開発の名のもとに西部の古い家並みが埋没することは決して許されないと思う。今後、我々市民は行政と一体となり、苦悩しながらもあらゆる英知を結集し、古い町並みをしっかり守り、同時に都市の再生開発の道を摸索してゆかねばならない。21世紀にむけて歴風会に課せられた責任は重い。

これは未来の子供達に対する責任であるばかりではなく、数多く訪れる函館の観光客を失望させない為にも必要なことである。保存と再生と云う大きなテーマに憶することなく、立ち向かい努力すれば必ず道は開け、闇に光を見い出すことができる。市民の皆さん頑張りましょう。歴風会の更なる発展と飛躍を心より期待します。

(陳 内科クリニック院長)

第8回歴風文化賞

保存建築物 2件
再生保存建築物 1件



← 浜岡 邸

函館市弁天町16-8 浜岡クニ様
明治から大正の初期にかけて函館が海運や北洋で隆盛をきわめていた時、西浜港に蔵や多くの町屋が建てられた。この建物も明治42年上下和洋折衷の様式で建てられ、1階部分に事務所を有する商業建築物である。建物の左側に接続していた蔵はすでになく現在は1・2階ともに居住用に使用されており、この地区の町並みに潤いを与えています。

本 田 邸 →

函館市弁天町14-12 本田トミ様
明治40年純和風様式で建てられ、古物商と住居を兼ねた建築物である。2階窓手すりは木製から鉄製、窓枠はアルミ製にと替わってはいるが全体的には往時の雰囲気を中心に伝えている。方形の屋根・2階部分のはね出し・外壁の下見板張りそして・板塀等この地区にはあまりみられない特徴を持ち、西部の歴史的な町並みに潤いを与えています。

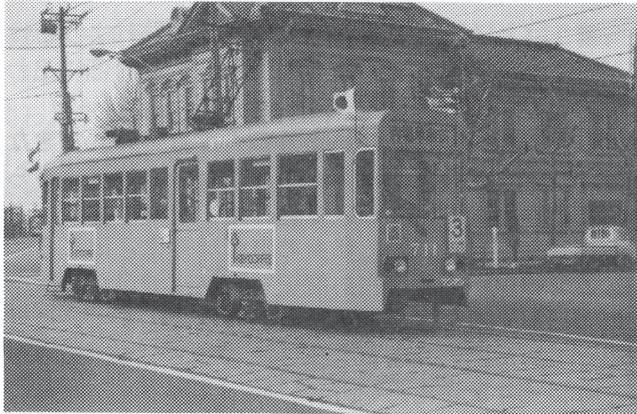


← 再生保存建築物
平和石油株式会社

函館市末広町22-16 本間貞雄様
明治40年創建当時は2階に両開きの洋窓、そして1階には堅繁格子付きの窓と引戸の玄関のある和洋折衷の建物だった。所有者がこれまで頻繁にかわったが、平和石油事務所となったのは昭和37年からである。昨年西部地区の町並み、特に近隣とのバランスを考えた建物の色彩、更にはその雰囲気に相応しく「船舶事務所」という性質をも兼ね備えた看板の作成など、今後の修景方向をさぐる大変良い実例であり、町並みへの深い情熱と努力に敬意を表します。



歴風的風土形成に寄興した団体として 「チンチン電車を走らせよう会」



「チンチン電車を走らせよう会」様

貴会は昭和63年発足以来、ナショナル・トラストの理念により日本最古の現役電車「ゆき2号」（ささら除雪車）を買いあげ、往時の姿に復元、西部の町並みに歴史とロマンを乗せてチンチン電車を走らせようと活発な市民運動を展げ大きな成果を挙げております。

市民に夢と勇気を育てた功績は大きく、ここに敬意を表します。

新春チャリティーパーティーへのメッセージ

ナショナル・トラストを進める全国の会幹事長

千葉大学教授 木原啓吉

函館の皆様へ——

全国各地でナショナル・トラスト運動に取り組んでいる住民の協力・連絡組織であります「ナショナル・トラストを進める全国の会」を代表して、函館の歴史的環境と自然環境の保全のために日夜ご活躍の皆様方に、心から敬意を表明いたします。あわせて「第9回ナショナル・トラスト全国大会」を今年10月、御地で開催させていただくことになりましたことに対し深く感謝の意を表します。

私どもは函館の市民の方々が、函館山のふもとにひろがる西部地区の歴史的景観の保護運動に立ち上がり、さらにウォーターフロントの価値に着目されて、地域の活性化をめざす多彩な市民運動を展開してこられたことを知っております。そして今、函館の景観をひきたて、市民のアメニティ感覚を育てるのに大きな役割を果たしてきたチンチン電車をナショナル・トラスト運動によって動態保存をしようとしておられることに注目しております。

住民の自発性と先見性に依拠し、その寄金をもとに

先手を打って環境を守って行こうとするナショナル・トラスト運動は、90余年の歴史を誇るイギリスをはじめ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカなど世界24カ国に広がってきました。わが国でも「知床国立公園内100平方メートル運動」をはじめ全国40余カ所で展開されています。最近では自治体がこの住民運動を評価し協力する動きが顕著になってきました。

この運動に取り組んでいる全国各地の人々が、この秋、函館に参集することは函館および北海道のナショナル・トラスト運動の拡大に寄与するのみならず、この運動がさらに一層質を高め、わが国の風土に根ざした力強い住民運動へと大きく前進する契機になるものと期待しております。

ここに函館の市民の皆様、さらなるご健勝を祈念いたします。

1991年2月8日

ナショナル・トラスト運動を日本へはじめて紹介したのは、大佛次郎氏が朝日新聞に連載した随筆「破壊される自然」（1965年2月8日～2月12日）によるときいています。その後、各地で運動がおき、横の連絡もさかんとなりました。

た。1983年2月木原教授を中心に「ナショナル・トラストを進める全国の会」が発足し、ここに一層の広がりを持った運動へと発展しています。
(編集部)

運河その後

元 小樽運河を守る会

会長 峰山 富美

第3回全国町並みゼミを小樽と函館で開催したのは、1980年のことであった。資金もなく、ごくわずかな人数で夢中になって準備を重ね何とかゼミを終えた時のあの感激は今も鮮やかである。

あれから十年を経て現在の小樽と函館をみる。互に観光ブームにわきかえっている。函館は西部の町並みを伝建地区に指定し、景観条例の制定、連絡船を守る運動、マンション建設阻止等々大いなる成果をあげている。一方小樽はその全面保存はならず、巾半分を残し650mの部分埋立、運河公園として整備、北側450mは全面保存という結果に終わった。ただ倉庫の再利用の第一号が北一ガラスで成功したのに伴い、運河ぞいの倉庫の再利用が目白押しで今日のにぎわいを見せている。

ふりかえって、あの十年の運動は何であったのか。当初運動にその名を連ねた人々も行政に反対することによるむづかしさにより止むなく運動からはなれざるを得なくなって次から次と去った。結局、教員・女・若者という何の背景もなく、市井に名もなく生きる人々によって行われた。初代会長の死去、事務局長がおりられたがそこに優秀な助っ人、石塚・柳田・森下という三君がシンクタンクとして運動に力を与え、理論をたて、運動の方法を示してくれた。地元の者と一緒に講座を開催、シンポを開き対策を検討、陳情、要請と全力投球した。親子でみる運河絵本を自費出版するというあたたかい運動も生まれ、わずか20名ほどの実働部隊であったが、純粹で高揚されてゆくのを覚えた。苦しい中でみながもえた。

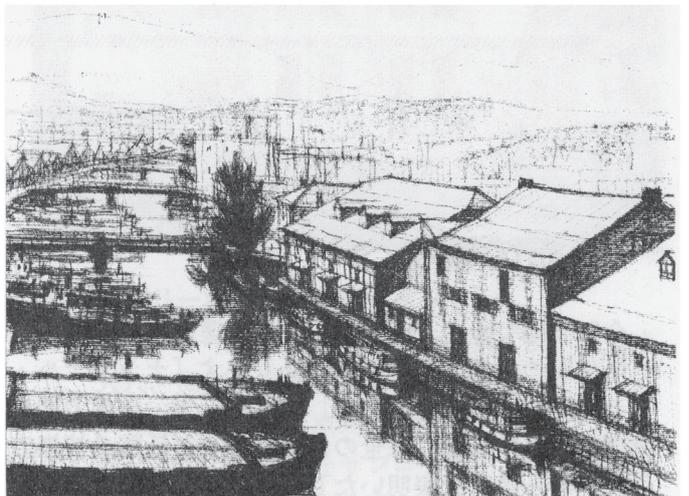
全国からの支援、市民十万の署名も遂に実らず、知事の斡旋の五者会談も平行線のままに終わり、半分埋立の運河構想によって決着ということになった。行政とは最後まで対立という構図を破ることは出来なかった。

運動は実らなかった。併しこの中でどれほど多くのものを与えられたかはかりしれない。人間にとって住む町とはどういう町か。その地域に残されている先人の知恵、歴史的遺産をどう受けとめ、守るべきか。経済と文化の調和したまことのゆたかさを求め、ともにこの地に生きる喜びを共有しよう。古いから残すのではなく我々人間にとってかけがえのないものなのだから守り残すのだ、ということを確認しあった。若い一人がいった。「これは新しい生き方の発見だ」と。

「斜陽なるが故にこの町にのこり得た遺産を活かすことがこの町の活性化」との私共の主張は市民に浸透し運河周辺の倉庫の再利用がめざましい。旧銀行もホテルに、ヨットハーバー、近くに石原裕二郎記念会館

も着工される。400万近い観光客が訪れようとは誰が予想しえたらう。行政も経済界もその対応に追われているのが実状である。

駐車場が足りない、あまりの人で買い物もできない、寿司の味が落ちた、ホテルが足りない、等々、さらに目ざとい中央の業者が入り込み地価をつりあげるといふ事態もおきてきた。私共の町の活性化とはこういうものではなかった。古い歴史を大切に静かな風情をただよわし、しっとりとみんなが喜んで生きている町を願っていた。観光におし流されるのでなく、しっかりと町づくりを考えたい。



函館の運動は当初から大人の運動を展開されていたように思う。行政との対話も市民への働きかけも順調、市民の文化意識も高かったのではと思う。小樽は商人の町でありどこまでも経済優先に考える町であることはいなめない。それは函館に教会建築が多く小樽には銀行建築が多いということに表れているように思う。運河運動でのシンクタンクは函館でも活躍されている。彼等のもつすぐれたものが活かされているのは嬉しいことである。

小樽ではまだまだ問題は多いと思う。小樽のブームは運河問題がきっかけになったのは事実であろう。しかし町づくりというのは部分的・短期的なものではなく全体的にとらえ長期的な視野でとらえるべきである。十年間に培われたものを運河に埋めてはなるまい。ボートで今、尚20万の人をあつめる若い者たち、壮年ながら町づくりにもの申すフォーラムの人々がいる。特に若い世代に今後の期待をかけたい。

北国の函館と小樽、それぞれのよさを生かしてすばらしい町づくりに一層はげんでゆくことを約し合いたい。

はくろ
波倉の町から函館へ

水景倉敷をつくる会 小野智之（32歳）

「京都と函館は致命的な景観破壊が進んでいる」地元の記者から聞かされました。未だ景観が社会的価値を問われず、将来に禍根を残す行為が繰り返されています。私は倉敷の伝建に住む者として、町並みゼミの田尻様との御縁で保存運動の現状を考えてみたいと思います。

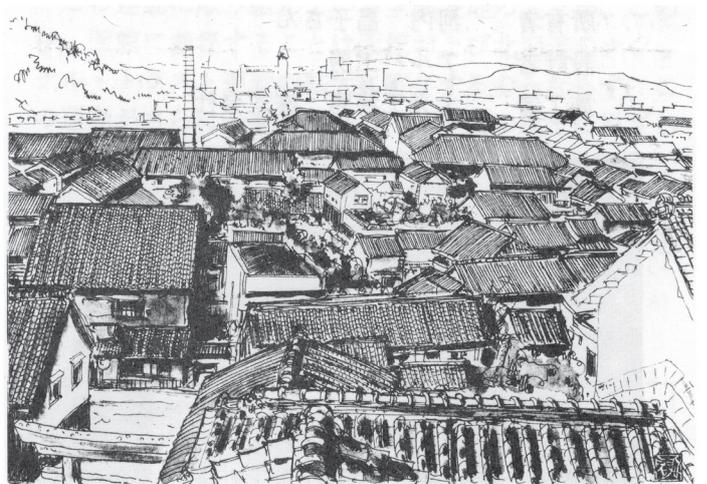
町並み保存に係わる者は、伝建や条例による規制と補助は最低限のこととして、これを超えた将来について一般住民より長い目で真剣に考えています。住宅や暮しにも世にあふれる時流にのまれた浮世のはかなさを直感的に見抜き、すぐれた文化としての歴史的町並みを維持し発展させ、我々の生きた証として歴史に記したいと思っています。しかし時代は住居を工芸の塊から大量生産の規格製品に変え、培ってきた町並みの調和を猥雑化し、結果として都市の命である景観を破壊し尽くそうとしています。対する住民の運動も感覚に訴える景観では力及ばず社会的には微力です。確かに保存運動は各地で沈みきった町、忘れられた街道、高齢者ばかりの村に光をあて、地域の誇りとして見直すきっかけをつくりました。自治体もこぞって修復計画を立て、古い町並みも観光によって生計が立つことを知りました。

しかし今、保存と開発の狭間で先進都市は投資運用のマンションが乱立し、景観と人心両面の崩壊の最前線に立たされています。私たちは問題をどうとらえ対処していけばよいのでしょうか。私は保存の思想を持ちたいと思います。時代の認識を踏まえ、保存はいかなる社会を目指すのか、おぼろげでも将来像を描きたいのです。保存は観光で当面成り立ちます。しかし、団体バスと修学旅行で財源は潤わせても、ひやかし遊覧客は観光の本筋ではありません。依存はしても求めるのは美しいすまいに人の寄りそう真実の暮らしです。客の波に浮かれて伝統美を切り売りすれば、先人や次代の人に顔向けができないでしょう。

私は倉敷の保存について二つの見方をもっています。各時代の代表建築も様式として評価する一般的見方と民家こそ美の真髄で様式の混在は認めつつも近代建築の安易な評価に厳しい見方です。後者はギリシャ神殿の大原も大正洋館の旧役場も民家の美しさには遠く及ばない。民家の時代は今後二度と訪れることのない民族の精華として世界に誇れる遺産だとする考えです。前者が歴史的立場なら後者は美的直感的立場にあると

言えるでしょう。この中心が民芸館長で町の最長老、とのむらさきのすけ外村吉之介氏で私もこの立場に立っています。そして保存という作為的作業は、美的立場に立たなければ形骸化すると信じています。修復された現代の町屋や商店は、過去の貧弱な家屋と比べても迫力不足はいなめません。意図して町並みの継続性を求める保存と作爲すべてが美しかった（そう思える）工芸の時代とは画然とした相違があるのです。この差を示し美の本質を説き明かすにはまだ歴史が浅すぎるようです。ただ、歴史的町並みを持つ我々は巡る歴史の工芸の頂点だった遺産と接していること。現代に望むべくもない人の技と自然との調和に根ざした景観という共通の文化遺産は、単なる一時代の通過点ではなく昇華点として認識し、保存は町並みを過去から学ぶ宝庫として歴史的文脈の巾で考えることが出発点だと思うのです。町並みの者こそが文化の最も正統な包括継承者で、その行動が時代を切り開くと信じているからです。

倉敷は「白壁の街」と宣伝されていますが、稚拙な壁の免罪符のような手垢のついた言葉よりずっと詩的な形容句があるのです。本瓦の幾重にも広がる薨の波を、昔誰かが「波倉の町」と呼び今に伝えています。つるがたやま鶴形山から見下ろすごとに、先人の築いた比類のない白と黒の美の配列に感じ、これを超えるものがはたしてあるのかと思うのです。まちづくりは終わりのない夢だといいます。困難であるがゆえに我々の営みを加え、再び喜び合える人間の都市にしたいものです。



片寄春舟氏画く

平成2年度函館市西部地区歴史的景観賞について

函館市都市建設部

景観保全課長 宇都宮 幸 雄

日頃函館市の景観行政の推進にあたり、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。現在市では歴史的景観地域において街路などの整備事業や補助事業などを通じ、町並みをよりよいものとしていくために積極的に取り組みを進めています。しかしながら、よりよい町並みをつくりあげるためには地域にお住まいの皆さんや市民の皆さんのまちづくりへの主体的な参加が不可欠です。

西部地区では、すでに市民の皆さんが様々な優れた活動をされています。函館市では景観形成に貢献する優れた行為を讃え、広く市民の皆さんに知っていただくために、平成元年度に「函館市西部地区歴史的景観賞」を設けました。

この賞は、歴史的景観地域内で過去5年以内に建築された建物で特に景観形成に配慮された優れたものの所有者の方、設計・施工に携わった方、景観形成のために優れた活動を3年以上続けている団体・個人の方を市民の皆さんに推薦していただき、応募のあったものの中から選考をして表彰しています。

平成2年度は第2回目の表彰となったわけですが、24通の応募があり、その中から次の3件の建物の所有者、設計者および施工者を表彰しました。

◆河内昌子さん住宅 元町29番8号

（函館特有の上下和洋折衷様式の要素を取り入れ周囲の景観をより優れたものにしていきます。）

所有者 河内 昌子さん
 設計者 アルパ工房
 施工者 大光工務店 株式会社



◆ホテル元町倶楽部 大町4番6号

（近代的な素材を用いながら、西部地区に伝わる伝統的な意匠を巧みに取り入れています。）

所有者 東日本総業 株式会社
 設計者 株式会社 田嶋英人設計事務所
 施工者 株式会社 銭高組 北海道支店



◆ギャラリー村岡 元町2番9号

（新しいデザインでありながら和風の要素を取り入れ、周辺の景観と調和しています。）

所有者 村岡 武司さん
 設計者 株式会社サンエンタープライズ一級建築士事務所
 施工者 株式会社 武田工房



なお、平成元年度は、函館カールレイモン本店・北方歴史資料館・手塚徳治さん宅の3件の関係者を表彰しています。

今後とも西部地区の景観形成にご理解とご協力をお願いいたします。

私設資料館

「^{へきりち}戸切地 もめんや節友館」

歴風会副会長 落 合 治 彦

◆はじめに（プロローグ）

養蚕の「種紙」の仕込の失敗で、当時10両の金を盗むと打首になった時代に、60両の負債を生じ、近江国一滋賀県東浅井郡大郷村落合一に幼児2人（兄妹）を親戚に預けて、初代「太右衛門」が単身、再興を期して箱館へ渡嶋したのは天保頃と伝えられている。

12年を経て2代「第蔵」が20才の時、父を尋ねて、はるばる箱館に来て劇的な父子の再会を果たしたと言う。

「第蔵」は父の勤めていた店より商品を借りて、1日10里の道程を目標に行商し、戸切地（上磯）が非常に良く物が売れたので、嘉永元年に木綿屋を開店した。以来140数年間5代に亘り営業を続けて来たが、平成元年6月廃業の止むなきにいたった。

廃業に際し、私共の姉弟5人が従前の町民への御恩返しと言う気持ちから、創業時の店名と、長姉の一字をとり「戸切地、もめんや 節友館」と名づけて資料館として再活する計画が決まった。

◆うら話

いざ実行の段階になって、江州（滋賀県）の出身のせいなのか、先祖代々「もったいない」の一言で、物を捨てられない家風が忠実に守られてきたから、どうしようもないもの——たとえば、戦後まもなく使った針金製の陳列器具やガラスの破れた木製のケース等の店舗の道具はもとより、家族の学用品や小さくなった衣服や台所用品等が大切に(?)保管されてきたから、気がついた時には5代目はゴミの中で生活していた—これが実情である。

最初の難関は家族も含めてこれらのゴミを一先ず、どこかへ移すことであった。まさに想像を絶する引越し大騒動を演じてしまった。



◆「もめんや 節友館」のねがい

創業者が扱った「木綿」を媒体に地域とのかかわりを深く求めたい。されば技術的な面の製糸・織機・染織・裁縫等の時代的考証も大切であるが、北国の生活に「木綿」が果たした役割を求めてみたいと願っている。

ともすれば、絹布の華やかさに影を潜めがちな「木綿」にスポットをあててみたい。

無地（織紺・白地）・緋・縞・縹・色柄へと庶民の生活必需品として、慈しまれ、工夫されて如何に大切に扱われてきたかと言うことを展示で表現したい。それともう一つ、昭和初期の函館在住の米田棟梁の建造物は、最近の函館市のマンションブームでその殆どが消滅した。明治中頃の土蔵造りの店舗構造と昭和初期の和洋折衷の建造物のコントラストも鑑賞していただきたい。

◆最後に（エピローグ）

引越大騒動を演じてから約1年たった平成2年11月文化の日、何とか仮オープンまでこぎつけたが、現在は冬期休館中である。実はこの冬期間こそ、これからの「もめんや 節友館」の性格づけをする貴重な準備期間となるはずであったが、現在群馬県の古墳発掘に参加して居り、毎日の緊張がつい「もめんや 節友館」構想より優先している状況下にある。

8世紀後半の終末期の古墳であるが、古代人の信仰とロマンにのめり込みそうで、この分だと5月開館も危ぶまれそうになる。

榛名山の雄大な眺めの中で、只、民芸品を雑多に並べた骨董品のショーケースにはしたくない！函館へ来たらもう一度訪れてみたいと心に残る資料館にしたいと逸る心をおさえ乍ら古墳の実測をしています。

（上磯町地方史研究会会長）

◎チャリティにご協力くださった商社は次の通りです。

(順不同 略敬称)

棒二森屋・今井・函館西部・函館ダイエー・魚長食品・函館山ロープウェイ・イトーヨーカドー・長崎屋・函館魚市場・五稜郭タワー・第一食品・さいか・サッポロウエシマコーヒー・文雅堂・カメラのたねざわ・太田比古象・おしゃれ館・ユニークショップつしま・五島軒・かもめの水兵さん・平方亮三・割烹中井・テーオー小笠原・アトリエ異流・BAYはこだて・函館ビヤホール・花ホテル

なお、恩村恭平先生他、多くの方々よりご厚志をちょうだいしました、各商社ならびに皆様へ心よりお礼申します。豊山孝雄先生、札幌からの祝電ありがとうございます。バンド演奏のVESTの皆様、たのしかったです。

◎当チャリティパーティー席上、1991年函館の街EVENTの諸々の紹介がありました。

歴風会関連行事として、

- ①91全国ウォーターフロント・サミット インHAKODATE (10月5・6日) サミット構成団体として…
- 小樽「小樽再生フォーラム」
 - 函館「函館の歴史的風土を守る会」
 - 猪苗代「猪苗代国際オープンヨットレース」
 - 新潟「運輸省第一港湾建設局」「日本海夕日コンサート」「新潟の水辺を考える会」「日本海夕日クルージング」「新潟北部開発協議会」
 - 船橋「漁港船橋のまちづくり」
 - 東京「隅田川市民交流実行委員会」
 - 横浜「横浜洋館探偵団」「よこはまかわを考える会」
 - 羽咋「千里浜ちびっこ駅伝」
 - 清水「豪華客船研究会」
 - 大阪「川口・安治川地区活性化協議会」
 - 神戸「港まち神戸を愛する会」「神戸港を考える会」
 - 福岡「はかた夢松原の会」
 - 柳川「築後川水問題研究会」
 - 長崎「中島川を守る会」「長崎の洋館研究保存会」
 - 宮崎「大淀川いかだ下り大会実行委員会」
 - 那覇「よびもどそう清流を！久茂地川フェスティバル」
- ②全国ナショナル・トラスト大会(10月下旬予定)の計画が夫々の担当者から発表されました。

事務局だより

☆11月2日大平宿をのこす会・大平宿を語る会・大平の自然と文化を守る会の各会長から、大平高原のリゾート開発に関する“大平開発基本計画”申し入れ(要請)に賛同いただきたいとの書面が入りました。その趣旨を理解し賛同書を送りました。なお申し入れ(要請)先は飯田市長、長野営林局長、錦キクオカ企画となっております。

☆11月16日、函館市文化団体協議会主催の平成2年度白鳳章・青麒麟章の表彰式と“市民文化交歓の集い”に会長外出席。

☆11月20日・21日、福岡市において開催の“環境とまちづくり 福岡90シンポジウム”のご案内が実行委員長からありました。残念ながら参加はできませんでしたが、盛況裡に終了することをお祈念いたしました。

☆第13回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティー開催準備に入る(11月28日～1月20日)。

☆1月24日、函館市文化団体協議会新年交流会(ハーバービューホテル)出席。

☆2月3日、国立国会図書館から、当会発刊の“函館のまちなみ”の納入依頼がありましたので、寄贈いたしました。

☆2月8日「町並み基金をつくる——音楽と語らいの夕べ」と銘うち恒例の新春チャリティパーティーを午後6時半より五島軒本店で開催しました。歴風文化賞受賞の方々をはじめ会員市民350余名が集い盛況裡に終了しました。今回運営にあられた陳有渠実行委員長、木村正子副実行委員長はじめ、ご支援くださった方々に対し感謝申し上げます。

…会費納入のお願い…

会費未納の方、よろしく申し上げます。
郵便振替—函館630
又は、拓銀昭和通支店 026-293-407
宛先は、函館の歴史的風土を守る会
住所は、千代台町20-18

— 編集後記 —

ご多忙のところ玉稿をお寄せ下さった方々へ先ず心より御礼申します。13回目の町並みチャリティ毎年一度この日に会う方、数年ぶりの会員、そして新しい若い顔顔など華やいだ宴の中に時代のうつろいを垣間み感慨ひとしおでした。今秋大きな2つの行事が待っています。皆様の更なるご支援をお願いします。

(田尻)